

図書館便り 3月号

2021年3月15日発行
阿波高校図書委員会

何名もの3年生からリクエストがあった芥川賞受賞作『推し、燃ゆ』。新着で入りました！が、卒業までに間に合わなかった…。阿波高校図書館、リクエストをくださった卒業生の皆様に心よりお詫び申し上げます。在校生の皆さん、ほかにもたくさん新着図書が入っています。『推し、燃ゆ』とともに、春休みを前にぜひ借りに来てくださいね。



○15HR図書委員玉田のオススメ本



『校閲ガール』

宮木 あや子 著

憧れのファッション誌の編集者を夢見て出版社に就職した河野悦子。しかし、彼女が配属されたのは校閲部。なぜなら彼女の名前が「それっぽい」から…。校閲の仕事は、原稿に誤りがないか確かめる地道な作業。そんな思いもしていなかった仕事をするようになった悦子の日々が綴られています。まるでミステリーを解き明かしていくようなエピソードも魅力的で、読み進めるのが楽しみな、何だか元気になるパワフルな物語です。ぜひ読んでみてください。

○15HR図書委員武知のオススメ本



『僕は何度でも、きみに初めての恋をする。』

沖田 円 著

家庭に問題があり悩んでいるセイと、1日しか記憶が持たないハナ。2人が出会い、それぞれの悩みや苦しみを分かち合い、そして、惹かれ合っていく…。

詩的で丁寧な読みやすい文章です。あっという間にお話に引き込まれ読み終わってしまいます。切なくてきれいな、とても優しい物語です。ぜひ読んでみてください。

○14HR図書委員河野のオススメ本



『青い鳥』

重松 清 著

この本は正しい道筋を教えてくれ、結論となる答えは自分で導き出すようになっています。人生について、そして、考えることの大切さについて教えてくれる1冊です。

『産廃Gメンが見た 食品廃棄の裏側』

石渡正佳 著

「産廃Gメン」とは、廃棄物の不法投棄現場の最前線で働く行政官です。そんな産廃Gメン石渡氏が深刻な日本の食品廃棄問題を取り上げた本です。一見難しく見えますが、読んでみると面白くて勉強になる1冊です。



○藤井先生へのインタビュー！

私たち14HR図書委員は、「阿波高新聞2月号」でたくさん本を読まれるとインタビューに答えられていた副担任の藤井先生に、さらに「本」についてお話をうかがってきました。ぜひご覧ください！

・学生時代に読んでいた本はどんな本ですか？

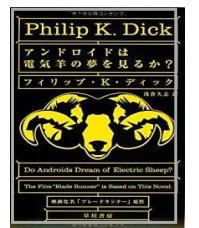
SF小説が好きで、特にアイザック・アシモフ、レイ・ブラッドベリ、アーサー・C・クラークなどの本を読んでいました。

・どんな時に本を読みますか？

気になった言葉があれば本屋へ行き、その言葉やキーワードに関連した新書を読みます。

・好きな本はありますか？

レイ・ブラッドベリの『華氏451度』とフィリップ・K・ディックの『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』です。



・高校生の私たちに読んで欲しい本を教えてください

パオロ・マツツァリーノの『反社会学講座』です。この本はタイトルにもある通り、著者が社会学に対して新しい視点で批判しています。「どうしてなんだろう？」という疑問や探究心から批判的思考力を高めることができます。皆さんには是非この本を読んで、批判的思考力を鍛えていただきたいと思います。

2020年度もたくさんの本を紹介できてよかったです。
また4月号でお会いしましょう！

